第3回 世論調査結果 まとまる

市では、住みよいまちづくりを進めるため、市民の皆さんが行政についてどのような考えを持っているか、把握するため第三回目の世論調査を行いました。今回の世論調査では「健康・福祉」と「教育・文化」の二つの問題点について一千四百八十五人の方々からお答えいただきました。この調査した中からいくつか取り上げてみました。

健康・福祉

市民の10人中7人が健康を自覚

★昨年一年間に、あなたは健康教室や各種検診などに参加しましたか？

「参加した」が約六割を占めており、そのうち結核検診がほぼ半数を占めています。また、近年高血圧予防が叫ばれているためか栄養講習会などの参加者が増えています。

	人数	比率(%)
結核検診	515	47.7
定例健康相談	157	14.6
乳幼児健診	137	12.7
栄養講習会	105	9.7
健康教室	38	3.5
衛生講話	27	2.5
60歳誕生月健康相談	26	2.4
母子（妊婦）相談	23	2.1
健康展	20	1.9
母親教室	17	1.6
歯科講習会	14	1.3
計	1,079	100.0

また、「参加しなかった」と答えた方は四割もおり、その理由として「忙しくて行けない」という答が最も多く、次いで「健康であるから必要ない」「現在医者にかかっている」「知らなかった」などの理由をあげています。

また、地区別に見ると大館地区が「参加しなかった」と答えた方が一番多く、逆に、参加者が多かったのが上川沿地区という結果が出ています。

★あなたの健康状態は

- 健康である　二九％
- どちらかといえば健康　二五％
- 別段悪いところがない　一八％
- 疲れを感じたりイライラすることがある　一三％
- 健康がおもわしくない　一五％

という結果が出ており、市民の七割までがまず健康であると自覚しています。

★集団検診についての要望は

- 短時間で検診を　三〇％
- 検診結果を早く通知してほしい　一八％
- 適切な事後指導を　一七％
- 検診日をもっと早く知らせてほしい　一四％
- 農繁期をさけて　一〇％
- 検診種目をふやして　七％

教育・文化

大学は積極的に誘致すべきだ52％

高齢化社会を迎え 老人福祉対策は

現在市の六十五歳以上の老人人口の比率は九・九％（三十五年は四・四％、四十五年は六・五％）となっており、高齢化社会への対応が大きな課題となっています。そこで、

★市の老人福祉対策で特に力を入れてほしいものは

- 老人の能力を社会と結びつける生がい対策　三二％
- 健康増進、疾病予防、リハビリティーションなどの一貫した総合保健体系の確立　一八％
- 老人ホーム、老人病院など施設の充実　一七％
- 一人暮らし老人、寝たきり老人対策　一六％
- 高齢者の就労対策　一六％

★近所づきあいについてどう考えますか？

- 同じ土地に住むものとして当然である　六九％
- ふだんの生活に何か困ったとき不便だ　二〇％
- たいして困らないので必要がない　二％
- わずらわしい　二％

この中で近所づきあいが当然であると答えた方で、借家、アパート住いの方が五五％で、持家の方の七二％と比べて低い数字が表われています。

★ボランティア活動に参加したことがありますか？

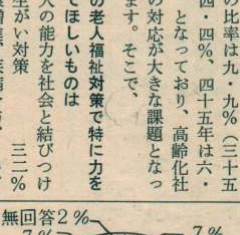
- ある　八％
- ない　九二％

「ない」と答えた方で、今後機会があればぜひやってみたいという方が多くみられました。

★障害者のため今後どのような事業に力を入れるべきか？

- 障害者の就労対策をすすめるべき　二九％
- 障害者が安心して歩けるよう公共建物の改善　二五％
- 障害者福祉施設の整備充実　二三％
- スポーツレク、野外訓練等の事業を　一二％
- 点字歩道板や盲人用信号機の整備を　一一％

★市の福祉行政について



市の福祉行政は、まだまだ多くの課題を残していますが、これらの調査結果を参考に福祉の充実に努めていきます。

郷土芸能の継承保存を

今「文化の時代」といわれ文化に対する関心が高まり文化行政の進め方が重要になってきました。そこで

★文化行政への要望は

- 伝統的な郷土芸能の継承、保存　二六％
- 文化会館の高度利用　二五％
- 生涯教育の推進　一八％
- 地域の文化遺産の保護、保存　一三％
- 美観、風致行政の対策　一〇％
- 芸術文化団体の育成　九％

★文化会館でやってほしい催し物（複数回答）

	男性	女性
1	放送局の公開番組 17％	市民による演劇、文芸、展覧会、芸能発表など 17％
2	講演会（時局、文学教育関係など） 15％	歌謡ショー 15％
3	歌謡ショー 15％	放送局の公開番組 14％
4	市民による演劇、文芸、展覧会、芸能発表など 12％	講演会（時局、文芸教育など） 12％
5	音楽会（クラシック） 9％	民謡 9％
6	民謡 8％	音楽会（クラシック） 9％

★大学（短大）誘致については

- 相当な市費がかかっても誘致すべきである　五二％
- 多額の市費がかかるようなら誘致に消極的でよい　二一％
- わからない　二五％

となっており、大館市にも大学をという市民の声が相当高まってきていることがわかります。

一方、地域の学校通学路の環境については「通学路は交通量が多く交通事故が心配」という回答が市内全地区で過半数を占めており、高速化時代を迎え、交通安全対策がますます重要課題になってきているのがわかります。また特徴的なものとして新市内地区では「冬期の除雪が遅れがちで通学に不便」という回答が目立ちました。その他二井田地区では「通学路周辺に畜舎や工場があって悪臭や騒音がひどい」という答えが多くありました。

★あなたはこの一年間に社会教育、社会体育活動などの行事に参加したことがありますか？

- 参加したことがある　二一％
- 参加したことがない　七六％

「参加したことがない」と答えた方の理由としては、「仕事の都合で参加できなかった」が五四％、「知っていたが関心がなかった」が二二％となっています。参加した行事で多かったのは各種スポーツ大会で、次いで各地区文化祭、教育の日、市民芸術文化祭の順となっています

市民と語る会

対話の集い〃市民と語る会〃も残すところあとわずかとなりました。大館地区は次の会場で行います。日程をお確かめのうえ、皆さん多数ご出席ください。

＜期日＞	＜会場＞
10月4日（月）	遍照院
6日（水）	一心院
7日（木）	相染町会館
8日（金）	東台一丁目会館
12日（火）	神明社長床
13日（水）	南ケ丘会館

＜時間＞
午後7時半～9時半

市長の対話ノート

No. 56

男女平等

「男女平等」確かに法のもとではそうでしょうが、現実は必ずしもそうではないし、そのことを否定できる人はいないでしょう。

平等とはいっても男女に平等な労働能力が備っているわけではないという反論もありますが、それは正論ではありません。女性に平等の機会が歴史的に保障されていれば、正論でないことはより明確に証明できることは論を待たないところです。

日本の女性美は「大和なでしこ」的美―つまり男性に追随する中に女性美の存在を見い出し、これこそ伝統美だとされてきました。しかしそれは男性優位論の変形であって、女性の美しさは「忍」、「堅実」、「生命」の三つであると考えます。

男性優位論に耐え、貞操観に代表されるように、より伝統的現実的である中にも、生命を生み、育てるという展望性を併せもっているからです。いまほど女性の特性が社会に求められている時はないでしょう。

絶えない権力闘争、思いやりのない社会環境から生ずる青少年非行の芽、日常生活や職場における過度の競争心、闘争心、そしてそれに由来する「我が身の安全性」こそ平和だとの主張、戦争肯定への道を拓く危険性等々

男女同居する社会に不平等、不公平はあってはなりませんし、それを否定する言論は愚論としかいいようがありません。女性の社会参加を保障し、平等の人事は日本の社会や経済の動きに新しい活力を生み、日本の平和、ひいては世界の平和に大きなウネリを起こすことは間違いありません。

国際婦人年は出発点であったはずです。事は終ったのではなく、日本の、そして大館の夜明けのための強い女性を市民の力で保障して行かなければなりません。

広報ディスカッション

秋の結婚シーズン。結婚披露宴は年々金がかかりすぎる傾向にあることから、会費制による合理化運動も進められています。この結せください。

ハガキまたは封書にご意見（四百字以内）と住所、氏名、（匿名希望の方はその旨を）